

教授

天本 理恵

■ 学歴

1. 2000年 中村学園大学大学院栄養科学研究科栄養科学専攻（修士課程）修了

■ 学位

1. 2012年 博士（医学）

■ 研究分野

1. 応用栄養学 分野（母子栄養）
2. 栄養代謝（生活習慣病とミトコンドリア）
- 3.

■ 研究キーワード

1. 生活習慣病とミトコンドリア
2. 栄養代謝（葉酸等）
- 3.

■ 研究課題

1. 生活習慣病（主に癌や加齢性疾患）とエネルギーおよび栄養代謝（ミトコンドリアを中心に）との関連を形態学、分子生物学的に検討する。また、葉酸とミトコンドリア機能の関連性についても実験、考察する。
- 2.

■ 担当授業科目

1. 応用栄養学Ⅰ（前期）栄養学科 必修
2. 応用栄養学Ⅱ（後期）栄養学科 必修
3. 総合演習Ⅱ（前期）栄養学科 必修
4. 応用栄養学実習（前期）栄養学科 必修
5. 管理栄養士演習Ⅰ（前期）栄養学科 選択
6. 臨地実習Ⅱ（後期）栄養学科 選択
7. 実践活動（3年後期～4年前期）栄養学科 選択
8. 栄養学概説（後期）栄養学科 必修
9. 母子栄養学（前期）助産別科 必修
10. 栄養学（前期）福祉学科 養護教諭 必修
11. 臨床栄養活動論（後期）栄養学科 選択
12. 調理師論（夏期集中）栄養学科 選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	<p>授業科目名【応用栄養学Ⅰ、応用栄養学Ⅱ、総合演習Ⅱ、栄養学概説、調理師論】</p> <p>1. 視覚教材に Power Point を使用して講義を行っている。文字だけのプレゼンテーションは学生の集中力を低下させるので、写真や図を多く取り入れて視覚的に捉え易い教材になるように努力して作成した。</p> <p>2. 1の教材を印刷したプリントと、関連資料を配布し、重要なところをマークさせた。また、Power Point 教材だけでは不十分なところについては、板書し、学生に書き取らせることで理解を深めてもらうようにした。板書+スライドで大事なポイントはダブルチェックさせ学生の理解を促した。スライドを印刷したプリントを配布しているが、板書を写すスペースも確保した配布資料の作成を行っている。</p> <p>3. 毎回の講義終了時に、講義内容の小テストを行い、学生に解答してもらった後で、解説した（調理師論以外）。この小テストによって学生にその日の講義内容とポイントを復習させた。小テストには、講義理解度を書く欄を作成し、学生に自己評価させた。また自由質問の欄に記載がある場合には、必ずそれに回答して返却した。以上のことより今後も出来る限り学年の特性に合わせた、かつ重要ポイントを外さない授業計画に配慮する。</p>
2.	<p>授業科目名【応用栄養学実習】</p> <p>本実習では、管理栄養士として役に立つ知識や技術を身に付けてもらうために、食物アレルギー対応食、嚥下調整食や、日頃家庭では作ることのないライフステージ別の献立を作製させ印象づけるようにしている。調理実習では示範時に調理の際の留意点や栄養管理のポイントを説明した。また各ライフステージにおける栄養管理上のポイントを中心にスライドで講義を行い、講義と調理実習をセットで行うことで各ライフステージにおける食生活の違いを視覚的にもきちんと捉えることが出来る講義内容となるように考えた。演習時においても各ライフステージの対象者の特性に合わせて、食事摂取基準を活用できる力を身につけることが出来るように講義を展開した。今後も学生にとって有意義かつ実践できる実習になるように改善を行っていく。</p>
3.	<p>授業科目名【臨地実習Ⅱ、臨床栄養活動論】</p> <p>臨床栄養活動論は、臨地実習Ⅱ（医療施設）と抱き合わせとなる演習であり、実習前の指導や、課題、献立作成、プレゼンなど、3人の担当教員および助手教員とともに講義時間外も含め、指導に尽力した。私が昨年度まで臨地実習Ⅰの担当であり、今年度から臨地実習Ⅱの担当に異動したが、臨床の現場経験がないため、講義の大半はお二人の先生（渡邊先生、山田先生）にオンブ状態であったことを反省している。今後も臨地実習に関しては、臨地実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲすべてに協力して出来る限りの学生の支援をしていきたいと考えている。</p>
4.	<p>授業科目名【管理栄養士演習Ⅰ】</p> <p>管理栄養士演習（国家試験対策）では、毎回項目別に試験問題を作成し、実施した。それらの問題の解説を行うために、沢山の関連資料を配布し（わかりにくいところや重要項目はポイント集を作成して配布した。）一緒にチェックしていくことで学生の理解を促した。さらにポイントや解説は板書し、学生に書き取らせることで、理解を促した。また正規の講義時間以外に行う、学科が開設している国家試験対策講座においても、同様の演習を実施し、学生への理解を促すことに努力した。今後も継続してこの講義形式で講義を展開していく。</p>

5.	<p>授業科目名【母子栄養学 助産別科】</p> <p>視覚教材に Power Point を使用して講義を行った。文字だけのプレゼンテーションは学生の集中力を低下させるので、写真や図を多く取り入れて視覚的に捉え易い教材になるように努力して作成した。母性の栄養補給法に関して、実習先での課題に対するポイントの解説も行った。助産別科の学生は食と栄養に関心が深く、熱心であり、私自身も講義、指導がしやすいと感じている。学生たちも、この講義が助産師として活躍していくときに、役に立つと評価しており、今後も将来役に立つと学生に思ってもらえる講義内容にしていきたいと考える。</p>
6.	<p>授業科目名【栄養学 福祉学科】</p> <p>対象が福祉学科で養護教諭を目指す学生たちのため、栄養のことを少しでも理解してもらい、将来の仕事に活かして欲しいとの思いから、栄養に関する難しい専門用語に関しては、出来る限り噛み砕いて教授するように努力した。毎回の講義終了時に、講義内容の小テストを行い、学生に解答してもらった後で、解説した。この小テストによって学生にその日の講義内容とポイントを復習させた。小テストに感想や質問を書いてくる学生たちが多く、その質問に必ず回答し、返却した。</p>
7.	<p>授業科目名【実践活動】</p> <p>2020 年度まで実施していた極低出生体重児の親子遊びの会『ほほえみの会』の後継プロジェクトとして、2021 年度より『ほほえみ project』が立ち上がった。2024 年度も、看護・福祉・栄養の 3 学科の学生たちが連携し、八幡病院の小児病棟に入院している子どもたちへ（乳児 40 名、幼児 80 名、学童 30 名）、各ライフステージの成長発達に合わせた知育玩具（クリスマスプレゼント）作りを実施した。プレゼントの企画から、材料購入、そして作製まで、3 学科の学生たちが協力して実施した。ゼミを通して、多職種との協働・連携ができる人材や精神の育成（学生教育）を目指したいと考える。また、今年度は、船越ゼミ、永田ゼミ生と協働して、北九州市学校給食応援団にも参加した。ぬか炊き、ぬかみそを使用した献立をテーマに、学生たちが連携して、献立を作成した。北九州市教育委員会で選ばれた献立は、1 月の郷土料理週間の時に提供され、学生も小学校での交流会に参加し、献立のプレゼンを実施した。学校給食応援団での経験を通して、協働・連携の力が身に付いたと考えられる。</p>

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2002 年 4 月～現在に至る	日本栄養士会	
2.	2002 年 4 月～現在に至る	日本栄養改善学会	
3.	2002 年 11 月～現在に至る	日本栄養・食糧学会	
4.	2010 年 4 月～現在に至る	日本癌学会	
5.	2012 年 4 月～現在に至る	日本分子生物学会	
6.	2017 年 4 月～現在に至る	日本スポーツ栄養学会	
7.	2022 年 4 月～現在に至る	日本 DOHaD 学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
(著書)					
1.	2025年4月 1日初版発 行予定	イラスト 応用栄養学 ・ライフステー ジ別栄養ケア・ マネジメント の理解と実践	共	東京教学社	①管理栄養士を目指す学生が広範囲の 「応用栄養学」を学ぶために、平易な文 章とイラストを多用したテキスト。国家 試験出題基準に準拠して作成。食事摂取 基準 2025 年版の改訂に合わせ、前版の イラスト応用栄養学から全てを見直し、 イラストを増やし、オールカラーで作成 した。 ②共著者：藤木理代（編）、 <u>天本理恵</u> 熊原秀晃、三田有紀子、大和孝子 中岡加奈絵、水田文、山田紀子 ③担当部分：第4章妊娠期・授乳期(p.76- 104)、第5章新生児・乳児期(p.106-132) 総頁：318 ページ ④B5 判
2.	2025年4月 5日初版発 行予定	スタンダー ド人間栄養 学 これから の応用栄養 学演習・実習 (第2版) ー栄養ケアプ ランと食事計 画・供食ー	共	朝倉書店	①応用栄養学の演習と実習のための教 科書(実習書)である。食事摂取基準 2025 年版の改訂もあり、前回の応用栄養学実 習書の中身を全て見直し作成した。 今回は編集に関わった。 ②編集者：渡邊 早苗、宮崎 由子、 吉野 陽子、 <u>天本 理恵</u> 共著者：渡邊早苗、 <u>天本理恵</u> 他 14 名 ③担当部分：序章 (p.2-7)、4 章妊娠期の 栄養管理の実際 (p.28-33)、献立の編集 総頁：136 ページ ④A4 判
3.					
(学術論文)					
1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					

3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2021年8月～現在に至る	北九州市小児保健研究会	理事
2.	2024年6月28日	福岡県保育協会研修会（給食研修会）	講師
3.	2024年7月27日	人権市民講座（大蔵市民センター）心身の健康を支える食について	講師
4.	2024年8月27日	北九州市社会福祉協議会 （穴生学舎 健康づくりサポーターコース）	講師
5.	2024年11月18日	遠賀・中間地区保育協会研修会	講師
6.	2024年12月	北九州市立保育所給食調理業務受託候補者選定検討会構成員 （北九州市こども家庭局）	構成員

7.	2024年3月～2025年3月	北九州市学校給食応援団	構成員（西南女学院大学として） 永田・船越・天本ゼミ協働
----	-----------------	-------------	---------------------------------

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023年4月～現在に至る	教務委員会	教務副委員長
2.	2016年8月～現在に至る	地域連携室 室員（子ども・子育て支援分野）	
3.	2025年1月25日	地域連携室 おはなしづくりワークショップ (保育科 阿南先生が主導)	運営スタッフ
4.	2019年4月～現在に至る	動物実験委員会	
5.	2021年6月～現在に至る	ほほえみproject(ほほえみの会2014年4月～2020年3月活動終了からの後継project)	看護学科・福祉学科と連携
6.	2024年7月26日	西南女学院高等学校進路ガイダンス	
7.	2024年～現在に至る	STEP UP	支援教員